

令和3年度

ふくしま産業応援 ファンド事業

【助成金公募のお知らせ】

研究開発をお考えの福島県内中小企業者の皆様へ
新商品・新技術等の調査・分析、開発、販路開拓に係る経費の一部を助成します。

県内中小企業者の皆様の新製品・新技術及びその構想について、市場調査、事業可能性調査及び開発並びに販路開拓について支援することにより、新産業の創造、新規市場の開拓、未開拓市場への参入を促進し、本県産業の活性化、本県産業の自立的発展を図るために実施するものです。

※本公募は、令和3年度福島県予算の県議会での成立を前提としていますので、予算成立が本事業実施の条件となります。

公募期間 令和3年2月15日(月)～3月31日(水)【必着】

助成対象期間 交付決定日(5月上旬予定)～令和4年1月31日まで

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本公募にかかる説明会は実施いたしません。

	助成対象者	対象経費	助成率	助成上限額
事業可能性等調査事業		<ul style="list-style-type: none">● 旅費● 調査・分析費● その他の事業費		100万円
技術開発事業	次のいずれかに該当する者 ① 県内に事業所を有する中小企業者、NPO法人等 ② 助成期間内に県内において創業する者	<ul style="list-style-type: none">● 原材料費● 機械装置・工具器具費(生産設備は対象外)● 外注加工費(主たる研究課題は外注不可)● 技術指導費● その他の事業費	助成対象経費の1/2以内	増額します 500万円
販路開拓事業	③ ①、②で構成されるグループ ※みなし大企業は対象外となります	<ul style="list-style-type: none">● 展示会出展関連費用● 広告宣伝費● 印刷製本費● 外部委託費● 職員等旅費● その他の事業費		100万円
中小企業育成支援事業	県内の商工関係団体、金融関係団体、金融機関、産学連携機関等	<ul style="list-style-type: none">● 謝金・旅費● 会議費● 印刷製本費● 通信運搬費● その他の事業費	助成対象経費の10/10以内	100万円

【お申込み・お問い合わせ先】

公益財団法人福島県産業振興センター
技術支援部 技術総務課

TEL:024-959-1929 E-Mail:f-tech@f-open.or.jp
LINE公式アカウント:@157njtwe



〒963-0215 郡山市待池台1-12
福島県ハイテクプラザ内

テクノ・コム

検索

【中小企業育成支援事業のお問い合わせ先】 企画管理部 総務企画課 (福島市三河南町1-20) TEL:024-525-4070
E-mail:soumu@f-open.or.jp

応募から事業終了までのスケジュール例

2月～3月	4月		5月		1月末	2月以降	
応募 (助成金交付 申請書の提出)	事務局 ヒアリング の実施	審査委員会 による審査	採択者 決定	採択通知、 助成事業開始	助成事業の 完了	(事業の実績報告後) 助成金額確定、 助成金支払い	(事業終了後) 事業化等状況の 定期報告

事業の取り組み事例

○脊椎手術等で使用される手術用開創器システムの開発

郡山市



脊椎手術等で使用される低侵襲開創器及び周辺装置の開発を行った。国内で使用されている開創器シェアは米国メーカー3社の製品がほぼ100%を占めており、日本人医師が望む改良やアフターサービスが十分でない状況であった。日本人医師のニーズに合わせた開創器システムの提供やスムーズなアフターサービスを求める声が医療現場に多くあったことから、本開発に取り組んだ。開発品を複数の医療機関で試験評価していただいたところ、高い評価を得て、事業化に至った。



○福島県内の「中硬質な地層」において浅部地中熱交換器設置に伴う既存ボーリングマシンの改良および小型化技術開発

郡山市



本事業では小規模施設において地中熱利用システムを導入するにあたり、日本大学工学部機械工学科【再生可能エネルギーシステム研究室】との共同開発によって、既存のボーリングマシンに改良・開発を施し、全国初の一般住宅専用地中熱ボーリングマシンの開発に成功した。

主な特徴は、小型のボーリングマシンなので狭隘地でも施工が可能であり、施工箇所の地質状況に合わせて専用のツール等に交換すれば、循環水と高圧エアとの2工法を選択して効率的に熱交換井を設置することが出来る。



○吸音ローパーティション・吸音壁貼りパネル・吸音デスクトップパネルの販路開拓

浅川町



近年、オフィスやコールセンター、医療施設等で会話の音漏れを軽減させたいというニーズが高まっていることから、施設に後付けで設置できる吸音パーティション、吸音パネルを開発した。これら製品の販路開拓を行うため、オフィス事務機器業者、企業の総務担当者、コールセンターや医療機関の担当者をターゲットとした、首都圏の展示会へ出展するとともに、業界紙等への広告掲載を行った。

開発品の性能が優れたものであり、かつ、展示会や業界紙の選定についてよく検討が行われていたため、その反響は非常に大きく、多数の受注を獲得した。